




論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	佐野 圭佑
論文担当者	主査 都築 建三 
	副査 木島 貴志 
	副査 池田 正孝 
学位論文名	Optimal threshold of a control parameter for tomotherapy respiratory tracking: A phantom study (トモセラピーを用いた呼吸追尾照射における最適な制御パラメーター設定の検討)
論文審査の結果の要旨	
<p>放射線治療において、従来の腫瘍の呼吸性変動を想定した範囲に照射野を拡大する ITV 法に比べて、呼吸性変動に伴う腫瘍の動きに合わせて追尾しながら照射を行う新たな動体追尾法が導入された。これは動体追尾システムである Synchrony (Accuray) がトモセラピー Radixact (Accuray) に導入され、臨床使用が開始されて低侵襲的な呼吸性移動対策の手法である。Synchrony では、追尾精度の予測や管理に potential difference (PD) と呼ばれる制御パラメーターが用いられるが、照射精度との関係性や最適閾値に関する報告がない。そこで本研究は、Synchrony システムを用いた動体追尾照射法における照射精度を検証し、制御パラメーターの最適閾値の検討を目的とした。</p> <p>半導体放射線検出器 (SRS-MapCHECK, Sun Nuclear) を moving platform 上に配置し、基本的な呼吸モデル (正弦波 4 乗波形) と 3 つの不規則変化を伴う呼吸モデル (ベースラインシフト、不安定振幅、フェーズシフト波形) を用いて駆動させた。動追尾照射は、検出器内の金属マーカーを標的として実施し、照射ごとの線量分布精度、追尾精度、そして制御パラメーターである potential difference を測定した。線量分布精度の評価はガンマ解析を用いて実施し、追尾精度の評価は、ファントムの駆動位置と追尾システムが予測した位置との差を二乗平均平方根で求めた。第一に、線量分布精度、追尾精度および PD の評価項目間との関係性を評価した。第二に、PD と線量分布精度の関係性から ROC 解析を用いて PD の最適な閾値の算出を行った。</p> <p>各測定結果から、線量分布精度および追尾精度と PD との間には、それぞれ線形の相関がみられた (<math>R = 0.827, -0.704</math>)。ROC 解析により、PD の最適なカットオフ値は 3.05 mm あることが示された。このことから、PD は照射精度を予測するための有用な制御パラメーターであり、その最適な閾値として約 3 mm が推奨されることが明らかになった。</p> <p>学位申請者が本研究で示した成果は放射線治療成績の向上につながるものであり、学位授与に値すると評価した。</p>	